

2019
9月号

原水協通信

国連NGO原水爆禁止日本協議会

毎月1回6日発行

頒価 220円

電話 (03)5842-6031

FAX (03)5842-6033

〒113-8464 東京都文京区湯島 2-4-2-4



原水爆禁止大阪府協議会 大阪市中央区谷町7-3-4 新谷町第3ビル210号 tel(06)6765-2552 fax(06)6765-2837

今年の原水爆禁止世界大会決議

被爆75年・2020年にヒバクシャの願いを実現しよう!



▲5000人の参加者の前で大阪の青年が閉会総会で決意表明

非核の政府・自治体・ヒバクシャ・市民の共同の力で
核なき世界を、核兵器禁止条約の発効を!

「核兵器のない平和で公正な世界を」テーマに、長崎をメイン会場に開催された原水爆禁止2019年世界大会は、8月7日〜9日の3日間行われました。

オーストラリア、メキシコ、ベネズエラの政府代表をはじめ22カ国から86人の海外代表と、日本各地から6500人(国際会議2000人、広島大会1300人、長崎大会5000人)の代表が参加しました。

核兵器禁止条約の発効が時間の問題となる中、トランプ

政権の使える核兵器の開発、INF(中距離核戦力)全廃条約の失効など、新たな核軍拡競争につながる動きを厳しく批判するとともに、被爆75年2020年を核兵器廃絶の歴史的転換とするためNPT再検討会議で、すべての政府にこれまでの合意の実行と核兵器禁止への参加を迫る世界的行動を呼びかけました。

今世界大会の特徴は、核兵器の非人道性を改めて告発しました。「国際会議宣言」では被爆者の実相と被爆者の声を世界に伝え、被爆者とともに立ち上がることを呼びかけました。

広島、長崎の両市長は平和宣言で、日本政府に核兵器禁止条約への積極的な対応を求めましたが、安倍首相は「核兵器禁止条約には全く触れないどころか、」

国際社会にいつそうの分断をもたらしている」と攻撃するありさまで、核兵器の廃絶を求める世界の流れと逆行し、「核兵器抑止論」に固守し、思考停止状態です。



また、新たな共同の広がりを示す大会となりました。「安保法制の廃止と立憲主義回復を求める市民連合」や「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟」の代表者が参加し、立憲民主党から連帯のメッセージが届いた大会となりました。大阪代表団は、長崎大会に273人(子どもを含む)、広島大会に23人、国際会議に4人が参加しました。感想文がたくさん寄せられています。被爆者の実相を心に刻み、核兵器のない平和で公正な世界

を」の気持ちを強くした感との想がほとんどでした。

「核兵器禁止条約」が2017年7月7日、122カ国の賛成で採択され、現在では26カ国が批准し、発効は来年の見通しです。「私たちが生きている間に核兵器禁止条約の発効を」との被爆者の願いに応え、また核兵器廃絶を希求する世界の諸国と力を合わせ、「ヒバクシャ国際署名」を集めていきましょう。原水爆禁止世界大会インニューヨークに大阪から2015NPT行動(目標100人)に匹敵する規模の代表団を送り出していきましょう。

【参加者の感想】
◇初参加の原水爆禁止でした。3日間は長いと思いましたが、あつという間でした。開会式では、全国からたくさんの方がおられ、稲嶺さんの沖縄での闘いを聞き、沖縄だけではなく全国の問題と語りつたことが印象に残りました。一番衝撃を受けたことは、被爆者の証言です。原爆のすさまじさや目の前で次々と人が亡くなつていく様子、家族を失った悲しみを淡々と話された証言された方の中で、被爆者が一人もいなくなつたらどうなつていくのか恐いと聞き、歴史として正しく継承していくこと、戦争はなんの解決にもならない、核兵器ゼロの運動を続けなければならないも強く感じた3日間でした。

被爆者体験を語る人の平均年齢は82歳です。今回参加でき、学んだことをたくさんの人に伝え、核廃絶運動、憲法9条改悪反対の運動に取り組んで行きたいと思えます。

(大教組)

ヒバクシャ国際署名

53万 3345 筆(8月24日現在)

核兵器禁止条約調印国&批准国

70カ国、26カ国(2019年8/30現在)

8月29日、カザフスタン新たにが26カ国目の国として批准書を国連事務総長に寄託

◇今回初めての参加となりましたが、被ばく者の方、また被ばく2世の方の話の直に聞く機会となり、長崎に原爆が投下されてから74年経つた今でも後遺症や社会的差別に苦しまれ、戦い続けておられる人たちが日本人だけでなく当時長崎で被ばくされた韓国の方もいることを知りました。

2日目の分科会では佐世保基地と基地周辺の見学へ行きました。道中では米軍の通勤のために作られた高速道路や、基地の施設設備における費用は「思いやり予算」による日本政府の負担であるということを知りました。

また米軍基地、自衛隊の軍艦や訓練施設、弾薬庫などがあるなか、一般市民の方が住まわられており日々不安と憤りのなかで生活されている現実を知りました。

平和というものは当たり前にあるものではなく、ひとりひとりが平和を願つて社会に対して働きかけないと実現していかないのであるということを大会に参加して実感しました。(社会福祉法人とんぼ分会)

